

指導資料

複式教育 第62号

鹿児島県総合教育センター
令和5年4月発行

対象
校種

小学校 中学校
義務教育学校



予測困難な時代を生きる子供たちを育てる複式学習指導Ⅲ — 「シンプル化」と「パターン化」で考える国語科の授業デザイン —

- ◆ 授業をシンプル化するには、学習目標の重点化、学習内容の明確化、学習方法の精選の視点でデザインする。
 - ◆ 授業をパターン化するには、単元構成のパターン化、板書の構成を基にした1単位時間構成の視点でデザインする。
- #複式学級における国語科の授業デザイン #授業デザインのシンプル化
#授業構成（単元・1単位時間）のパターン化

1 はじめに

複式学級における国語科の授業デザインは、算数科に比べると難しいという話をよく聞く。教科の特性でもあるが、国語科は学ぶことが他教科等に比べ抽象的であるからである。そのため、学習内容が領域や単元によって多種多様であり、1単位時間の学習過程がその都度異なることが多い。その結果、複式学級においてガイド学習で学ぶ子供たちには、学習の進め方が難しい場合が多い。

そこで本資料では、当センターの指導資料「複式教育第60号（通巻第2056号、令和2年10月発行）」及び「複式教育第61号（通巻第2120号、令和4年4月発行）」（いずれも右下二次元コード参照）の考え方を踏まえ、子供が主体的に学ぶことができる複式学級における国語科授業デザインのポイントを解説していく。



複式教育第60号



複式教育第61号

2 授業づくりの流れ

複式学級とは、二つ以上の学年の子供たち

を一つにした学級である。そのため、発達の段階の異なる複数学年の子供が同教室で同時に学習することとなる。したがって、教師の間接指導の時間帯が増え、子供が自分たちで学習を進めなければならない場面が増えるということにつながる。

このことから、授業が教師主導ではなく子供主体になるようデザインするために、次の要件をできるだけ満たす必要があると考える。

複式学級における授業デザインの要件

- ① **子供が自分たちで学習できるようにする**
教師が絶えず子供の傍らに寄り添い、支援し続けなくても自分たちで学習を進めることができるようにする。
- ② **子供が学び方等で迷わず、自信をもって学習できるようにする**
学習内容に応じて、その都度学習の進め方が変わるのではなく、汎用的な学習の進め方の下で子供が一貫して学ぶことができるようにする。
- ③ **子供がじっくり考える機会を担保する**
子供がどっぷりと活動に没頭し、一人一人が熟考できる場面や時間を十分確保できるようにする。

これらの要件を満たすためには、授業をシンプル化したり、パターン化したりするとよいのではないかと考え、これらを授業改善の

ための二つの視点として複式学級における国語科の授業をデザインしていくこととする。

3 シンプル化

国語科の授業は単元や教材の内容によって、言語活動や教材・教具、学習方法などの選択は多種多様である。そのため、教師は授業を進めながら子供の思考に応じた発問を重ねるなど、臨機応変に対応して支援を行う。しかし、複式学級においては、そのような教師の支援が十分できないことが多いと考える。したがって、先の授業デザインの要件を満たす授業は、子供自ら学習を進めることができるようシンプルな構造がよい。

これらのことから、一つの授業に多くの学習内容や方法を詰め込み過ぎず、本時の学習のねらいを明確にして最も重要なものを一つに精選するといった考え方で授業をデザインしていくことが大事であると考え。なお、国語科の授業における重点化については、指導資料「国語第161号（通巻第2129号）」（令和4年10月発行、右二次元コード参照）



に詳しく述べられているので参照してほしい。

(1) 学習目標の重点化

単元全体や1単位時間の目的を達成するための学習目標を明確にする。その際、できる限り1授業1目標に絞り込んでシンプルにする。そのためには、どの単元でどの指導事項を重点化するのかを明確にし、単元間でバランスをとる必要がある。また、年間指導計画を作成する時点で重点指導事項を組織的・計画的に検討することで、より効果的なものになると考える。

(2) 学習内容の明確化

目標達成に向け、子供が何を学ぶかといった学習内容を明確にしてシンプルにする必要がある。そのため、指導事項や教材の深い分析、子供の具体的な実態把握を踏まえる必要がある。

(3) 学習方法の精選

子供が学習内容を学ぶために、必要な学習活動を最低限度に絞り込んでシンプルにすることが重要である。その際、学習活動を「(子供が)～することができるように、(教師が)～する(させる)」などと、目的を明確にして考えるようにすると捉えやすい。

「(1) 学習目標の重点化」の例

小学校第1学年「読むこと」
こたえを かんがえながら よもう「くちばし」

本単元の目標である「事柄の順序」の理解に重点を絞り込んで学習するために、書く活動を割愛した。その代わりに、文カードの並べ替えの活動を取り入れ、「問い」と「答え」の順序についての理解を深めるようにした。

文カードの並べ替え

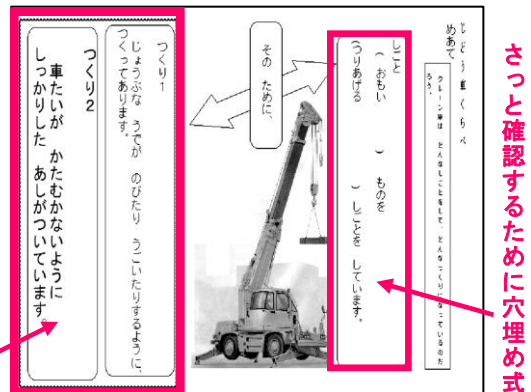


「(2) 学習内容の明確化」、 「(3) 学習方法の精選」の例

小学校第1学年「読むこと」
くらべて よもう「じどう車くらべ」

本単元は、①自動車の仕事、②自動車のつくりを読み取ることで「事柄の順序」の理解を促す単元であるが、②自動車のつくりを読み取る活動を重点化して学習するために、ワークシートを工夫した。

じっくり考えさせるために記述式



さっと確認するために穴埋め式

4 パターン化

(1) 単元構成のパターン化

国語科では学習するものが抽象的で概念的なものが少なくないため、教師は言語活動に着目し、言語活動を通して身に付けたい力を習得するという授業デザインが多い。その結果、言語活動を行うことが目的となってしまう、習得することがないがしろになるなど、いわゆる「活動あって学びなし」の授業であると揶揄されることも少なくない。そのため、授業の目的を明確にして、身に付けたい力の習得と活用を意識して言語活動を設定するなど、単元計画に確実に位置付けることで、より分かりやすい授業が実現できると考える。

また、国語科の単元は比較的多くの時間で構成されていることが多い。そのため、子供は単元の最後まで学習意欲を持続できなかつたり、単元の目標と1単位時間の目標が乖離

してしまったりして、単元の途中で学習する目的が薄れてしまうことも少なくない。そこで、単元のゴールイメージを抱きやすいように単元を通して行う言語活動のモデルを提示したり、その言語活動を試しに行ったりすることで課題を明確にするなどして、単元の導入時に学習意欲をかき立て、学ぶ目的意識が持続できる活動を設定する必要があると考える。なお、国語科を学ぶよさを実感させる指導の詳しい考え方は、指導資料「国語第151号（通巻第2065号）」（令和3年4月発行、右二次元コード参照）を参照してほしい。



これらのことから、子供自ら主体的に学習を進める必要性が高い複式学級という特性から、複式学級における国語科の単元構成を「意欲付け→習得→活用」の3ステップでパターン化することを提案する。

「(1) 単元構成のパターン化」の例

※ 新保恵教諭（奄美市立宇宿小学校）の実践より

小学校第3学年「読むこと」
場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう「ちいちゃんのかげおくり」

小学校第4学年「読むこと」
気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう「ごんぎつね」

3ステップの単元構成

「意欲付け」の場面では、二つの学年の目的意識と相手意識を揃え、学級全員で学ぶよさを実感させるために、言語活動（ゴールの活動）を同一のものにした。

「習得」の場面では、二つの学年の壁を越えて交流することで考えが広がったり、深まったりすることができるように、学習内容や方法をできる限り揃えられるようにした。

「活用」の場面では、子供一人一人が学習進度を設定する自由進度学習を取り入れ、より子供一人一人を主体とした個別最適な学びが実現できるようにした。また、単元終末の活動を揃えることで、二つの学年による学びのよさを味わえるようにした。

	3年 学習活動		4年 学習活動
意欲付け	1 ゴールの活動や単元のめあてを設定する。 これまでの「読む学習」を振り返り、「物語を読んだ感想を伝えよう」という共通の言語活動を知る。		1 ゴールの活動や単元のめあてを設定する。 これまでの「読む学習」を振り返り、「物語を読んだ感想を伝えよう」という共通の言語活動を知る。
	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>感想って苦手だから、難しそうだな。思ったことを感想にすればいいのかな。</p> </div> <p>② 読書原りで自分が選んだ物語の感想を伝えよう。</p>		<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>自分が思ったことを言っているよ。自分の感想と友達との感想と比べてどういうだろう。</p> </div> <p>② 読書原りで物語の深まった感想を発表しよう。</p>
習得	④ よりよい感想をもつには、どのようにすればよいだろうか。		④ よりよい感想をもつには、どのようにすればよいだろうか。
	<p>・比べて読む読み方 ・感想の持ち方</p>		<p>・気持ちの変化のとらえ方 ・友達との感想の生かし方</p>
	2 学習計画を立てる。		2 学習計画を立てる。
	<p>① 比べて読む方法をさがす。(常)</p> <p>② 比べて読む方法をさがす。(かけおくり)</p> <p>③ 比べて読む方法をさがす。(ごんぎつね)</p> <p>④ 比べて読んだことを生かした感想の持ち方を確認する。</p> <p>⑤ 自分が選んだ物語を読んで感想を書く。</p> <p>⑥ 自分が選んだ物語の感想を発表する。</p>		<p>① 気持ちを読む方法をさがす。</p> <p>② 気持ちの変化を読む方法をさがす。</p> <p>③ 友達のことを基に自分の考えと比べる。</p> <p>④ 友達のことを生かした感想の持ち方を確認する。</p> <p>⑤ 共通のよから自分が選んだ物語や友達が選んだ物語を読んで感想を書く。</p> <p>⑥ 自分と友達の感じ方の違いから物語の深まった感想を発表する。</p>
	3 教材文を基に比べて読む方法をさがす。(全員で)		3 教材文を基に気持ちを読む方法をさがす。(全員で)
	<p>問：二つの空を比べよう。</p> <p>問：ごんの気持ちが表れているのはどこだろう。</p>		<p>問：ごんが表れているのはどこだろう。</p> <p>問：ごんが表れているのはどこだろう。</p>
4 教材文を基に比べて読む方法をさがす。(全員で)		4 教材文を基に気持ちを読む方法をさがす。(全員で)	
<p>問：かけおくりを比べよう。</p> <p>問：ごんが表れているのはどこだろう。</p>		<p>問：ごんが表れているのはどこだろう。</p> <p>問：ごんが表れているのはどこだろう。</p>	
活用	<p>くらべて読むには、出来事・会話・様子に注目すればよい。</p>		<p>気持ちをの変化を読むには、場面以上の気持ち・行動・情景を比べて読めばよい。</p>
	5 教材文を基に比べて読む方法をさがす。(自分で)		5 自分の考えをよりよくするために、どのように友達の考えを生かしたらよいかをさがす。
	<p>問：自分で選んだ□を比べよう。</p> <p>問：友達の感想から自分の感想を見直そう。</p>		<p>問：友達の感想から自分の感想を見直そう。</p>
	6 比べて読んだことを生かした感想の持ち方を確認する。 くらべて読んで、感想をもつポイント表づくり		6 気持ちの変化をとらえ、友達の考えを生かした感想の持ち方を確認する。 友達の感想とくらべて、それを生かした感想をもつポイント表づくり
自由進度学習	7～9		7～9
	<p>・自分で物語を選ぶ。</p> <p>・自分で選んだ物語を読む。</p> <p>・自分で選んだ物語の感想を書く。</p>		<p>・自分で選んだ物語を読み、感想を書く。</p> <p>・友達が選んだ物語を読み、感想を書く。</p> <p>・自分が選んだ物語を読んだ友達の感想を確認し、それを生かして自分の感想を完成させる。</p>
活用	10～11		10～11
	<p>感想を交流したり、友達が選んだ物語を読んだりし、学習を振り返る。</p>		<p>感想を交流したり、友達が選んだ物語を読んだりし、学習を振り返る。</p>
	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>物語を読むときは、話の中で同じものや違うものを比べて、様子や違いを気付かずに読んでいきたい。</p> </div>		<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>物語を読むときは、気持ちの変化を読んできた。他の人の感想にも興味があります。</p> </div>

(2) 板書の構成を基にした1単位時間構成のパターン化

複式学級の授業では、これまでも子供が自分たちで進められるように、授業の進み方が分かる「ガイドの手引き」を活用するなど、1単位時間の授業の流れをパターン化してきた。しかし、学習内容が領域や単元によって多種多様な国語科においては、一つの「学習の手引き」として整理してまとめることは難しいと考えられてきた。また、「ガイドの手引き」等を用いてパターン化を進めれば進めるほど、子供は話型に捕らわれ、学び自体が形骸化してしまうなど、画一的な教師主導の

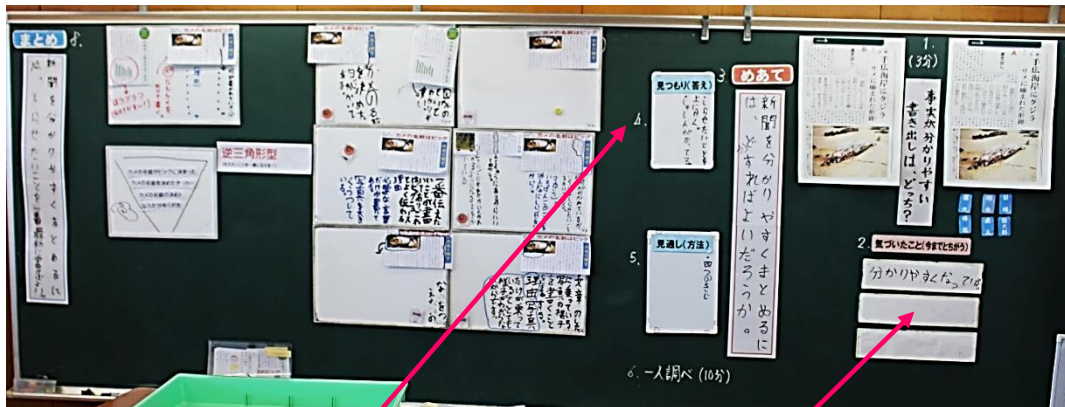
学習になりがちである。そのため、子供の主体的な学習を担保しつつ、どの領域・単元であっても汎用的に使い、子供が自分自身で学習を進められるようなシンプルな学習方法が望まれる。そこで、板書の構成を基にした授業デザインを提案する。具体的には、板書の流れを活用して授業の進め方（流れ）を示しておく。その上で、板書プレートで授業の流れを把握できるようにし、その詳細については子供自身に考えさせるようにする。このようにすることで、自分自身で考え学習を進めていくという、子供主体の学びを実現しやすいと考える。

「(2) 板書の構成を基にした1単位時間構成のパターン化」の例

※ 田代真美教諭（奄美市立宇宿小学校）の実践より

小学校第3学年「読むこと」
組み立てを考えて、ほうこくする文章を書こう「仕事のくふう、見つけたよ」

小学校第4学年「読むこと」
事実を分かりやすくほうこくしよう「新聞を作ろう」



番号を付けることで、**学習の順序**が分かるようにしている。

算数科の学習パターンと同じようにすることで、子供が主体的に学習できるようにしている。

5 おわりに

本資料では、複式学級における子供が主体的に学ぶことができる授業デザインのポイントについて、国語科の学習指導に焦点を絞って解説した。しかし、「複式学級における授業デザインの要件」を満たす考え方は、他教科等にも十分応用できると考える。さらには、子供主体の分かりやすい授業をつくるという点を考えれば、複式学級のみならず、単式学級の授業デザインにも生かされるものであると確信す



宇宿小
Web ページ

る。なお、本資料で述べた考え方は、本センターの研究提携校である奄美市立宇宿小学校で実践されているので、参照してほしい（左下二次元コード参照）。

－主な参考文献－

- 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』2017，東洋館出版社
- 中央教育審議会『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）』2021
- 奄美市立宇宿小学校「研究紀要『自ら学び自ら考える子供の育成～教科等を学ぶ価値が実感できる複式学級における学習指導を通して（国語科）～』」2022

（教科教育研修課 石川 雅仁）

※ 本資料は，UD フォントを使用しています。